

C—5 婦人服に関する色彩と形態及び流行についての調査

—名古屋，京都地区における受容態度の比較
(その2)—

梶山女学園大家政	○斎藤	祥子
滋賀県立短大	藤岡	伸子
奈良女大家政	山崎	勝弘

1. 1968年7，8月に表題の調査を開始し，その集計結果では，婦人服に対する嗜好性が，名古屋，京都の2都市において，多少の相違が認められたので，それらを先に報告したが，その後，さらに，それらの確証を得る為，1969年7月に，同じ方法により調査した。交通機関が，著しく発達し，文化の交流が，円滑化しつつある昨今，日本婦人の若年層の間に(1)婦人服に対する関心の焦点(2)服色における彩度の極限等について，地域差について調査した。

2. 比較的，都市中央に近い洋裁学生を対象とし名古屋3校100名，京都2校100名計200名を選びアンケート法と観測法によって調査した。観測用色票は，日本色研の調査用カラーコード及び，光伸書房の500カラーカードを使用，修正マンセル法による10色相の彩度を4段階に分割し，計40種を用いた。

3. 2カ年間の集計結果では，アンケート法による意見に大差は認められなかった。ただし，服色に対する観測法では，嗜好には，2都市に共通性と多少のばらつきが認められた。前者の例として，G，PB，RP，後者の例として，YR，Y，GY等があげられる。これら両者は，それぞれ，補色及び，準補色の関係にある点など，注目し価値する諸問題が認められた。